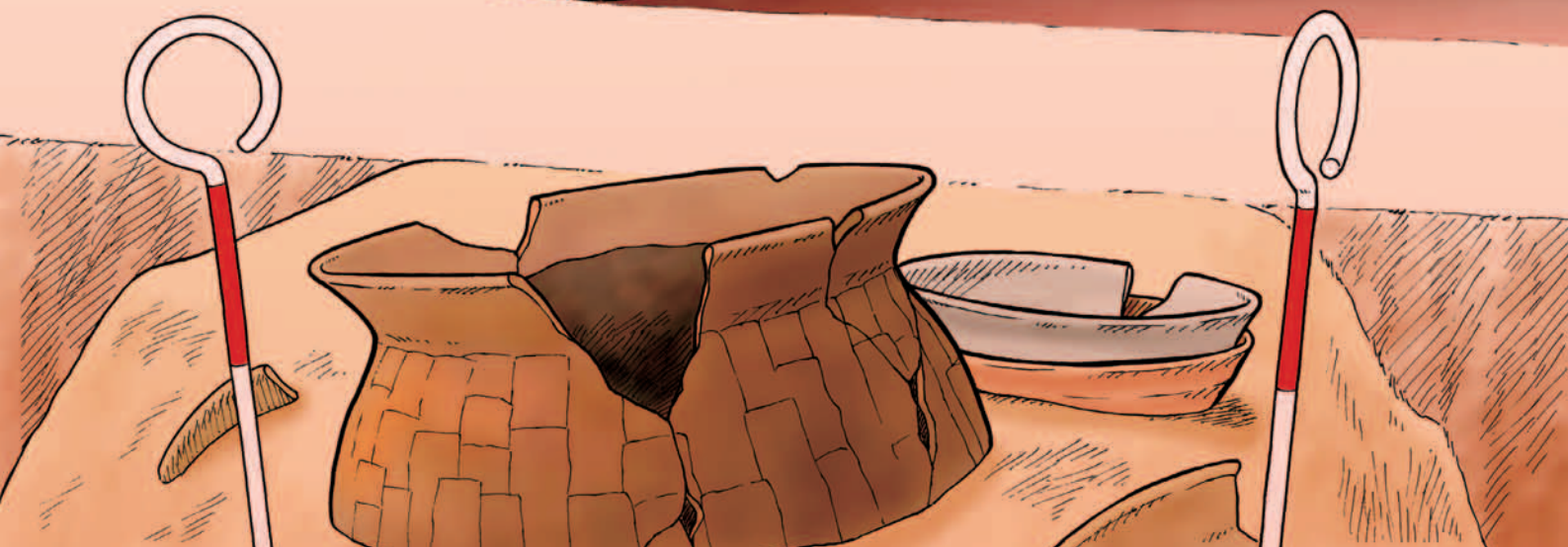


さようなら財団  
特別号

# 発掘つてなあに

発掘のしごと篇







製作

本編・なるみのイチオン  
発掘調査ということ  
なるみのイチオン監修  
編集協力  
デジタル化技術指導

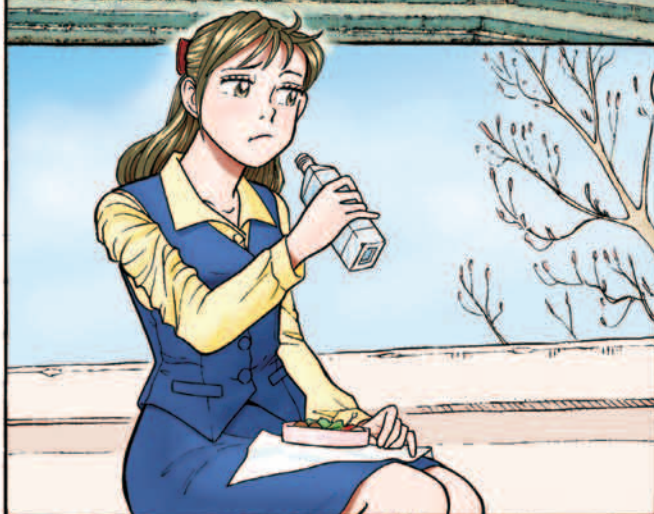
櫻井教史  
西野雅人  
忍澤成規  
小橋健司  
大村 直



市原市も  
ぎょうせい かいかく  
行政改革の  
流れを受け

財団法人  
市原市文化財センターは  
かいさん  
解散することになりました

4月からは  
こうりつ  
公立の文化財センター  
として継続します

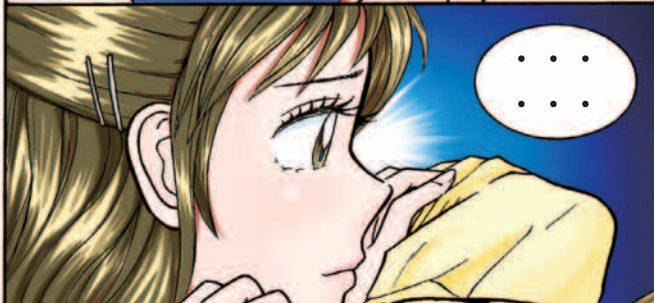


いやあ

すっかり  
あたたかくな  
ったね



ええ



考えごと？

・・・  
いろんなことが  
ありましたよね・・・  
短い間でしたけど



ホラ覚えてます？  
私の初めての  
はっくつ せいり  
発掘と整理・・・

ああ・・・  
いっしょに  
やったもんね

—今回はさとしとなるみの思い出ばなしです—



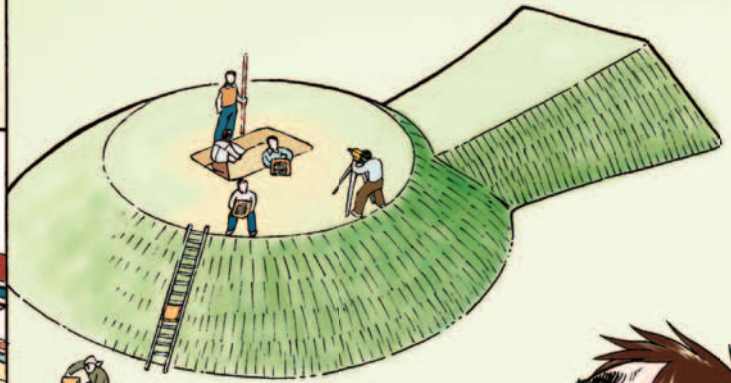


キミがなるみクン?

よろしくお願いします

# はつくつちようさ 1 発掘調査について

がくじゆつちようさ けんきゆうもくてき  
A 学術調査 考古学の研究目的で  
いせき いちぶ  
遺跡の一部にメスを入れる



いいかい  
はつくつちようさ  
発掘調査には

つぎの  
にしゆるい  
二種類が  
ある!

いせきぜんたい  
遺跡全体を  
調査することは  
あまりないから  
たいがい  
遺跡は  
ほぞん  
保存される

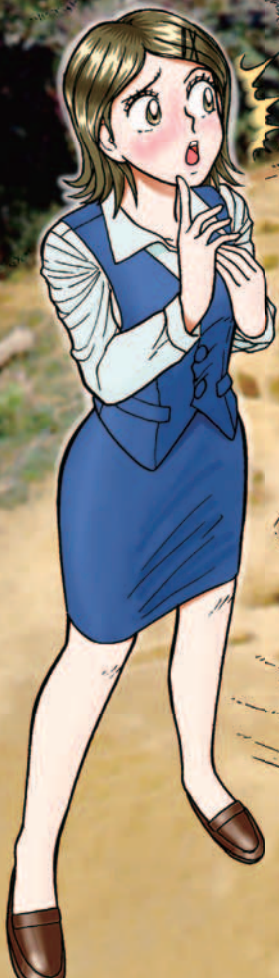
## きんきゆうちようさ B 緊急調査

かいはつ ちよくせん きろく  
開発で遺跡がこわされる直前に、記録を残すため行なう

日本の発掘調査は  
ほとんどが  
緊急調査です

そうだよ

もう二度と  
やり直しのきかない  
大切な仕事なのさ



あ

ってことは  
発掘した遺跡って  
ほとんどが  
なくなっちゃうん  
ですか!?







さて発掘を始めるのにまずは・・・

遺跡の内容を知る必要がありますね

① かくにんちようさ 確認調査



そう!

それを調べるための調査をやるんだ

この辺は なんにもない

かいばつほんい 開発範囲

全体の10%ほどに「グリッド」「トレンチ」などによばれる試掘坑を掘って遺跡の広がりや内容などを確認する



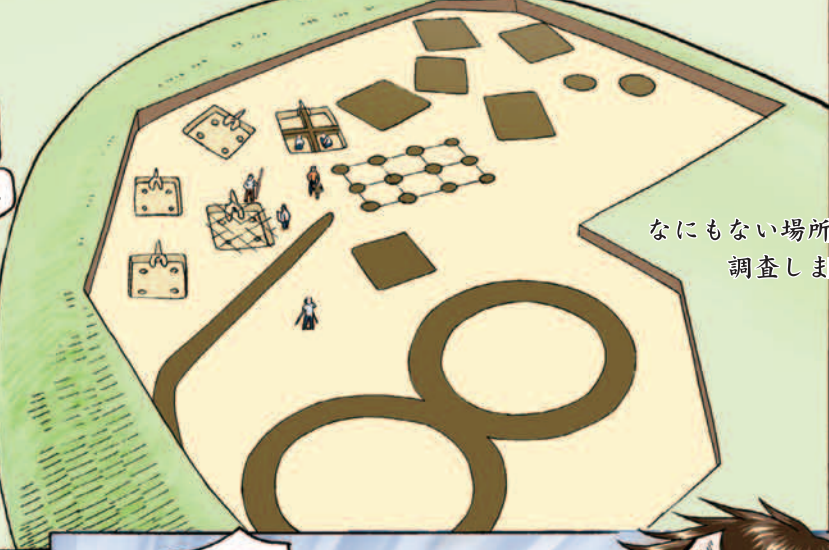
じゆうきよ ほ 住居を掘るのに さぎよういん 作業員5人を わりあてて・・・

いっけんいっしゅうかん 一軒一週間 かかったとして

え〜と それから それから

そのデータをもとに ほんかくてき 本格的な調査を行う範囲や必要な予算・日程などが決まる

② ほんちようさ 本調査 —そしていよいよ始まるのである—



なんにもない場所は 調査しません



という ことで

さあ 着がえた



わっ ちよっ

わたし事務員 なんですけど

人手が たりないん だよ!



日ざしの強い日は  
ぼうし  
わす  
帽子を忘れずに

エンピツ

消しゴム

カッター

フィールドノート

何かと便利な  
ピンポール

どしよくちやう  
土色粘(土の色の教科書)

いしよく  
移植ゴテ

ここを折ると  
使いやすい

おれ げんば  
俺の現場

うわあ♡

ひょうどじよぎよ  
表土除去

ダオオオ

そんじゃあ  
遺構の  
プラン確認  
おねがいね

イコウ?

ぷらんかくにん?

???

げんば  
現代の地表面

ひょうどじよぎよ  
表土層(黒土)は  
重機で取っちゃう

あかつち  
黒土と赤土(ローム)  
の境で止める

なぞ  
謎のシミ  
次のページで  
明かされる



# 遺構の確認

# さまざまな遺構を発見!



むかしの人が  
地面に残した  
痕跡をひくくめて  
「遺構」とよんでる

こぶん  
古墳



ほったてばしらたてものあと  
掘立柱建物跡

どこう  
土坑



こんなふうに見つけるのか

たてあなじゆうきよあと  
竪穴住居跡

おもしろ〜い

カマドの跡  
あと  
ねんど  
粘土っぽい土が入っている

ジョレンで  
カミノリのように  
ちひようめん  
地表面をそぐには  
ちょっとしたコツがいる

# 遺構を掘る

ここに住居跡が  
二軒ぶん  
あるよ〜

ベルトの部分  
を残して掘ってネ

はい



掘る



いこうない  
遺構内につもった土を  
「覆土」という

住居①

セクションベルト

住居②

あとで  
覆土のようすを  
観察するため!

てっ

はい

どうして  
ベルトを  
掘り残す  
んですか?

ウス

ウス

今すぐ掘りたい  
ぜんぶ掘りたい

へいめん だんめん  
平面と断面の  
記録が  
遺構調査の  
キホンなのだ





見たまえ

住居②

セクションベルトから  
いろんなことが  
わかるぞ!

住居①

二軒の切り合い部分

しっとりとした  
黒い土がレンズ  
みたいに積もる

ローム玉まじりの  
投げこんだような土

住居①の覆土は  
住居②に切られてる  
から

②の方が①より  
新しく

つまりは

住居①

せまく  
なったナ〜

たてかえ  
できネ

①を埋めて

すご

さらに  
①の覆土は  
一気に  
埋め戻した  
もので

こんな  
ことまで  
わかっちゃう  
んですか?

大きな②に  
建て替えた

②はゆっくり  
自然に  
埋まった土  
だよ

②はゆっくりと  
消えていった

ムラの移動?

とにかく何でも  
カンでも  
野帳に  
メモとけよ

セクションベルトは  
土層断面図として  
作図・記録します

イエッサー





いぶつ  
遺物のとりあげ

むかしひともの  
昔の人が作った物を  
こうこがくでは「遺物」と言います



遺物は  
見つけても  
そのままに  
しておき

まとめて  
へいめんず  
平面図に記入し  
ひょうこう  
標高も調べる

ばあい  
場合によっては  
写真も撮って

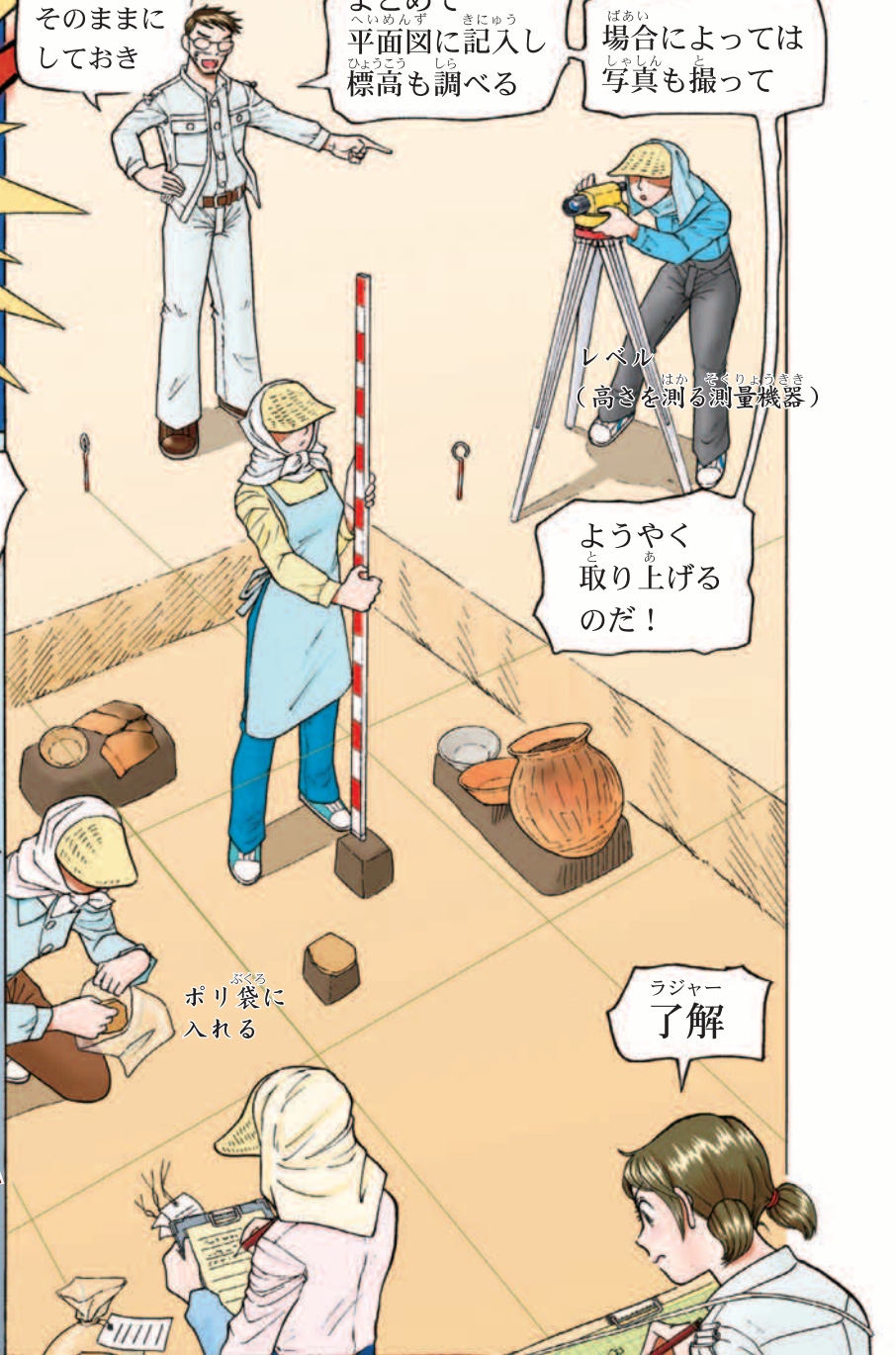


宝さがし  
やってんじゃ  
ないんだ

むやみに  
動かしちゃ  
だめだよ

ごめんなさい

どんまい  
どんまい



レベル  
はか  
はかりようき  
(高さを測る測量機器)

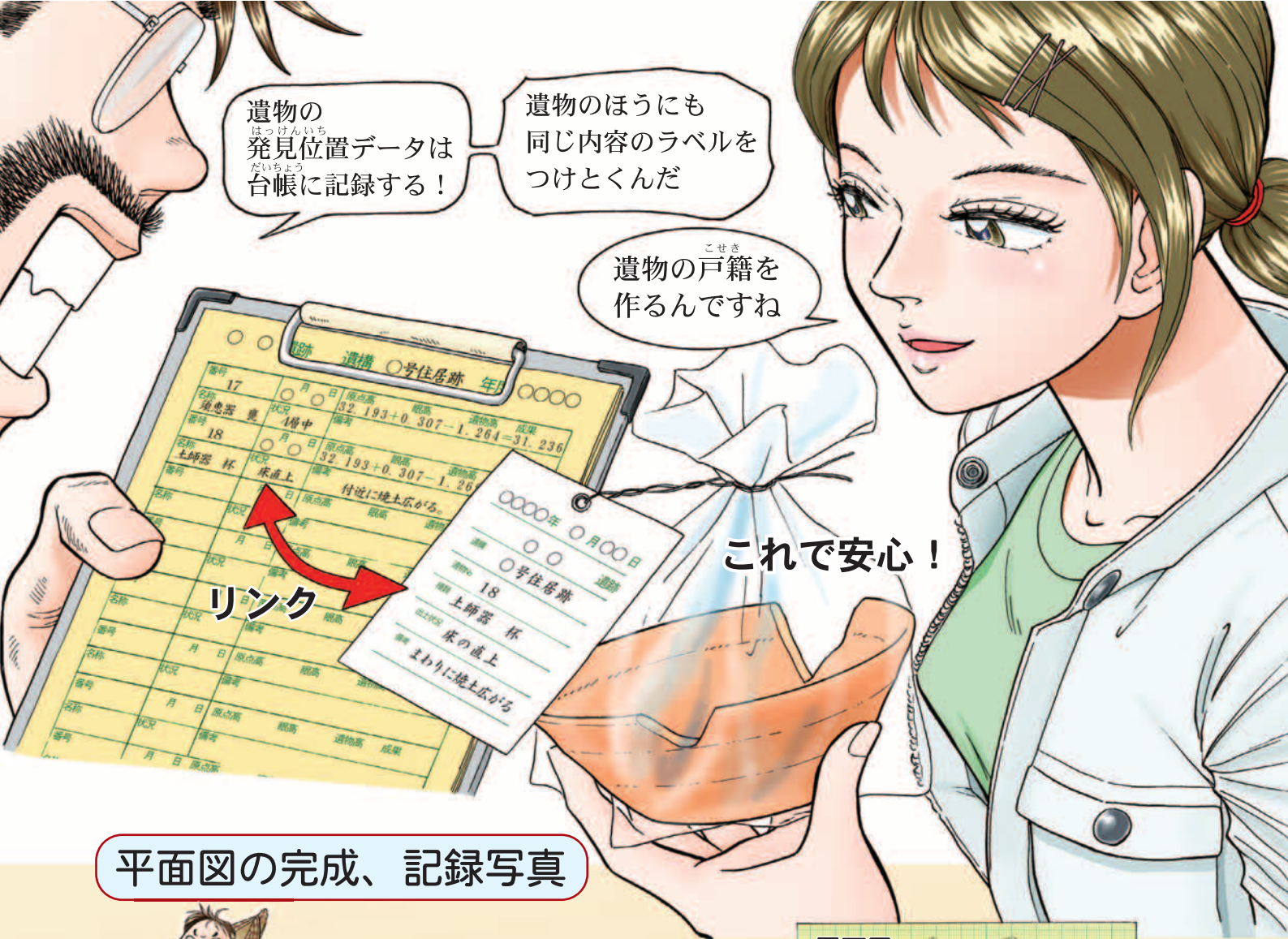
ようやく  
取り上げる  
のだ!

ぶくろ  
ポリ袋に  
入れる

ラジャー  
了解

ポリ袋に  
ラベルを付ける





遺物の  
発見位置データは  
だいちよう  
台帳に記録する！

遺物のほうにも  
同じ内容のラベルを  
つけとくんだ

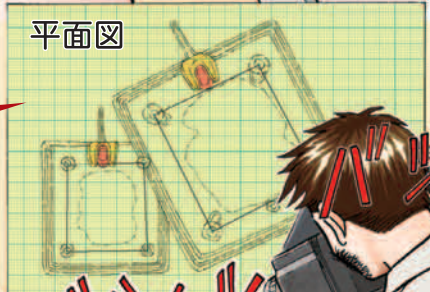
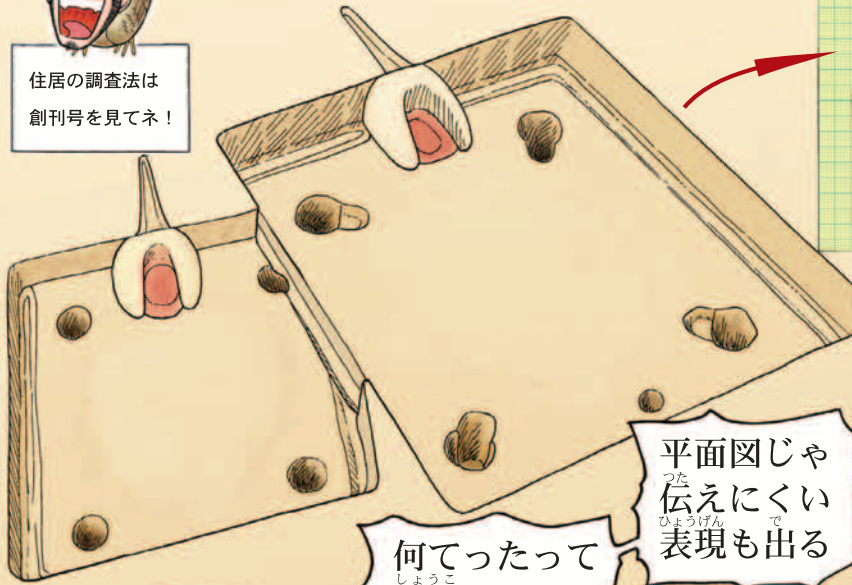
遺物の<sup>こせき</sup>戸籍を  
作るんですね

これで安心！

リンク

平面図の完成、記録写真

住居の調査法は  
創刊号を見てネ！



そう  
ライブ感  
だよ〜っ

平面図じゃ  
伝えにくい  
表現も出る

何てったって  
証拠になるし

写真も  
撮るん  
ですネ

この絵の場合、写真撮影のあと  
さらにカマドや貼床を剥がして  
記録し、終了となります



# 調査終了!



こうして初めての  
発掘が終わり

遺跡は消えて  
ゆきました

けっきょく  
遺跡をこわすのが  
私たちの仕事なのかと

ちょっとしたジレンマに  
おちい 陥りながら帰路につきます



私たちにはこの記録を  
こうひょう 公表する責任がある



せいりさぎょう  
整理作業も  
てつだ 手伝ってねっ



はい



せいらり きぎょう  
**2 整理作業** (発掘の記録を本にまとめる)

ここからは  
 市原市文化財センター  
 のなかでのお話です

ピィーッ  
 ピィーッ  
 オーライ  
 オーライ

ゴム手袋を  
 使わないと  
 手荒れます

せんじょう  
**遺物の洗浄**

水は大切に  
 使おう

あまり強く洗うと  
 土器の表面が  
 スれてしまうことが  
 あります

ザル

たたくような  
 感じで  
 やさしく

水がよごれたら  
 入れ替える

せんめんき  
 洗面器

きんぞくせいひん  
 金属製品は  
 水洗いできない  
 から注意してね

コッ  
 コッ

ラベルをたたんで  
 下に入れる

デザインナイフなどで  
 クリーニング

かいづか  
 貝塚の整理は  
 2号を見てネ







# 遺物の実測



遺物を図面に起こすって大変なのね

キャリパー  
ディバイダー

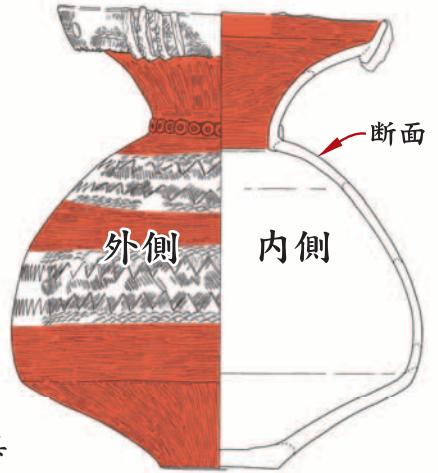
遺物の厚みや長さを測る道具

マコ(真弧)

便利な型取り器

うまく使わないとズレるときがある

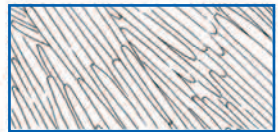
## ☆土器の場合



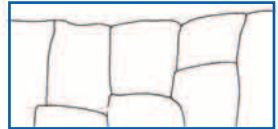
## 土器づくりの情報



ハケメ



ヘラミガキ



ヘラケズリ



ロクロによる横ナデ

ほかにもいろいろあります

つき杯(9世紀中葉)



ロクロで横ナデ後 体部の下から底にかけて手持ちヘラケズリし 形を整えている



絵じゃなくて図面！  
芸術じゃないの

いかに情報を伝えるかが大切！

どのように作られ  
どのように使われた？

これを知らしめるのが実測図！

つまり遺物にくわしくないと

良い図は描けないってこと？

そう努力したまえ

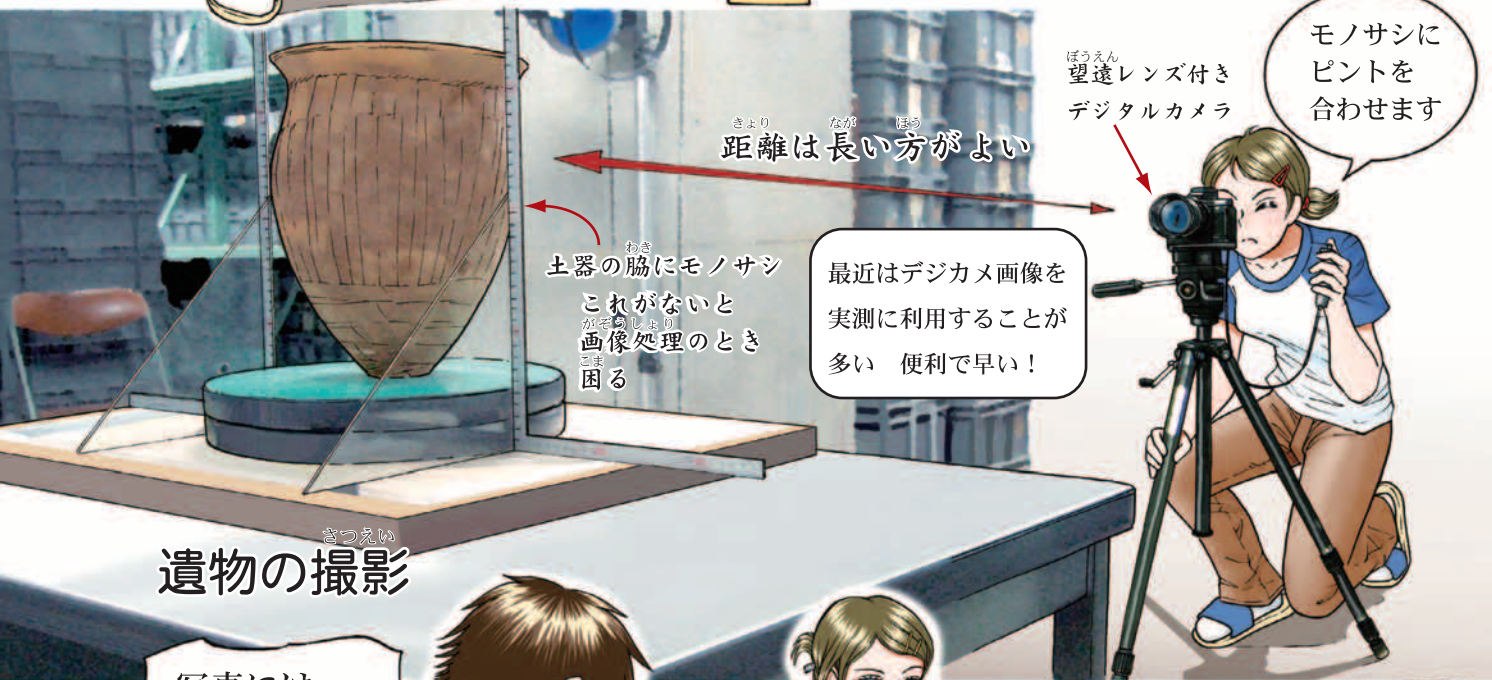
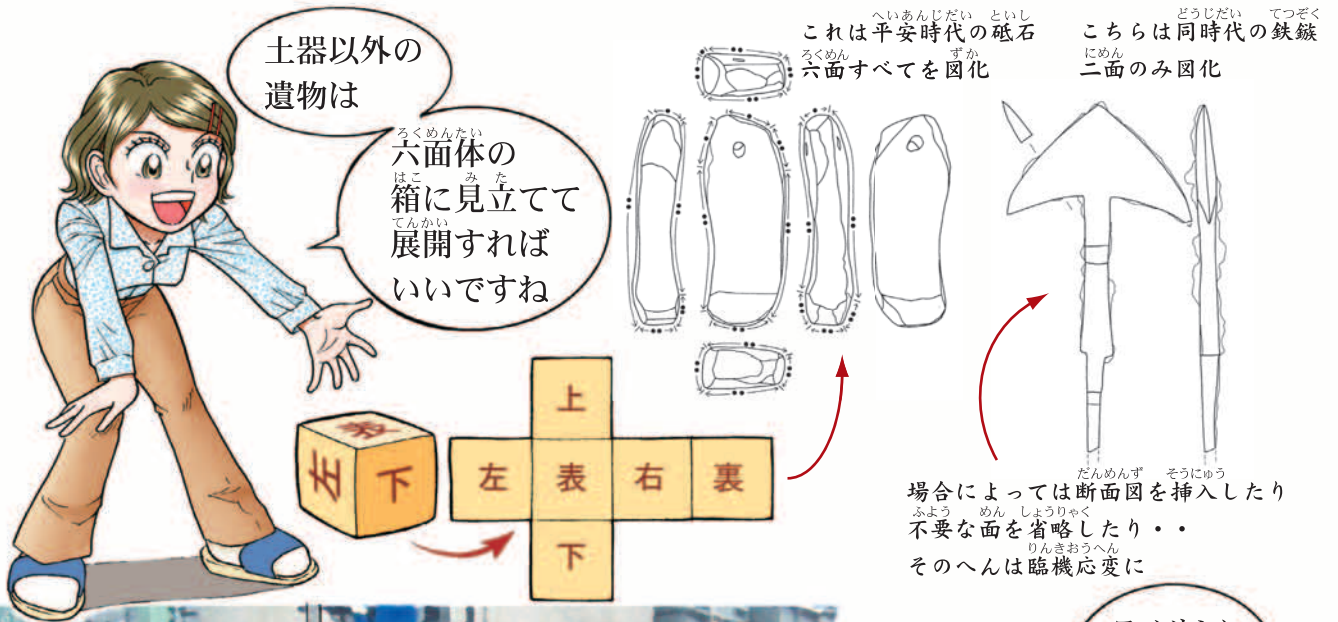
## 実測図は語る

つば壺(3世紀前半)



文様は櫛のような工具による  
外面はハケメで整え赤く塗った後ヘラミガキしている  
内面はハケメを板でナデ消す





### 遺物の撮影





いこうずめん せいり  
遺構図面の整理

ほうこくしょ  
報告書のレイアウトを  
かんが げんず  
考えながら原図をつくる



げんば きろく  
現場で記録した  
ざった じょうほう  
雑多な情報を  
しゅしゅせんたく  
取捨選択してね



遺物は × で表示  
復元のときくっついた破片は  
線でむすぶ

遺物は平面・断面図の両方に示す

ついでに  
遺構の時期や  
せいかく かくてい  
性格も確定  
しちゃえ

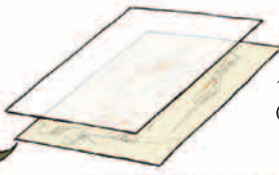
作業を  
進めながら

遺構データの表を  
つくっちゃおう



現場のメモは  
役に立ちます

げんず すみい  
原図のトレース（墨入れ）

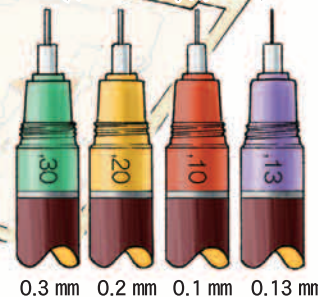


原図にトレーシングペーパー  
（透けて見える紙）をかき  
ロットリングでなぞる

ん〜っ  
職人芸っ



ロットリング  
（トレミス専用ペン）



よく使うペン先四種

む ぶ  
人によって向き・不向きが  
大きいので せんもん ほじょいん  
専門の補助員  
さんがいたりします



あつごーい

一気にきれいに  
なりましたよ  
ホラ

見て♡  
見て♡



でも最近  
はパソコン使  
って

デジタルトレ  
スやってる  
人も多い  
みたいですよ

パソコンで  
図版まで  
組めるから  
便利ですよ

ムム〜ツ？  
時代だね〜ツ

ずはんさくせい  
図版作成

トレースした図を  
台紙に貼るんだ

本のレイアウトも  
ここで決まる

2倍台紙の場合  
1/2で印刷される

最近は台紙を使  
わずパソコンで  
版組みしデジ  
タルデータと  
して完成させ  
る人もふえて  
きたようです

どんどん  
組み上がって  
く感じ♡

できあがったら  
トレーシングペ  
ーパーをかぶ  
せ・・・

必要な文字を  
鉛筆で書いてお  
くと印刷屋さん  
が活字にしてく  
れます

トレース図を  
スキャンする

デジタル  
トレースなら  
なお良い



げんこう か  
原稿を書く

え〜と  
この住居は  
こっちより古くて  
埋め戻されて  
たんだっけ？



ちがいますう

ああつ  
これじゃ図表と  
矛盾しますよ

いやですから

柱は  
抜き取ってます

だから・・  
その土器は  
となりの住居です！

ホントに  
役立つ  
現場メモ

報告書は  
ホームページでも  
公開しますので  
PDFデータも  
作ってください

あとは印刷屋さんへ・・・

やった！

原稿は  
CDに

こちらが  
図版に  
なります  
それと・・

全部で200  
ページですね・・

やったよ  
なるみクン

助かったよ  
手伝ってくれて

やっぱり報告書は  
ちゃんと出さなきゃね

どつと  
つか  
疲れた

ついに完成！

大切な情報をあずかる責任は重いのです  
こうしてやっと肩の荷が下りるのでした



# 発掘調査ということ

**「発掘ってなあに」** 発掘は、土のなかに埋もれたものをただ掘り出すことではなく、明確な目的をもって、確かな方法とそれを支える技術に基づいて行われているものです。このことは、このシリーズを通して皆さんに伝えたかったことです。シリーズの終わりに当たって、発掘の方法と技術の紹介をテーマに選びました。このコラムでは、さらに発掘の目的や意義について考えてみます。この数年、発掘調査をとりまく状況は大きく変動しています。今こそ、あらためて「発掘ってなあに」を問い直し、いかにあるべきか意見を出し合うときと感じます。

近年の地域経済や文化の地盤沈下にどう対処するか、どのような地域づくりをめざすのか。この地域行政の中心テーマに対して、発掘資料を含めた文化財は、重要な役割を果たしうる魅力をもっています。自分たちの地域の歴史と風土をよく知ることは、その地域の未来を考えるために大切なことですし、また、そこに住むことに誇りや愛着をもつことにつながるからです。この魅力をいかに知ってもらい、活かしていくかは、わたしたちの永遠の課題です。「文化財は貴重な財産」ということはなんとなく理解できるとしても、具体的にどのように大事なのか、どのように役立つ可能性があるのか、このような視点で「発掘ってなあに」を考えてみます。

**発掘資料の特質と調査の工夫** 発掘のほとんどは、開発などで失われる遺跡を調査して記録を残す「緊急発掘」と呼ばれるものです（2ページ）。本来、遺跡は保存して未来に残すのが理想ですが、不可能な場合に発掘調査によって記録を保存するというのが基本的な考え方です。いったん発掘した遺跡は元に戻すことができないので、限られた条件のなかでどのように調査し、なにをどの程度記録するかは、何にもまして大事なことです。

発掘によって得られる情報は、具体的で生々しい反面、不完全で断片的であるのがふつうです。遺跡に残されたものは、当時存在したもののうちのごくわずかでしかありません。腐りにくく、見つけやすい大きめの遺物ばかり見ていては、本当のところはわからないので、さまざまな分析方法を取り入れています。貝層を土ごと持ち帰り、目の細かいフルイを使って小さな資料を回収する（本誌第2号）など、新たな方法を開発しながら、実態に迫る工夫をしています。また、場合によっては地形・気候・植生・動物相など当時の人々の生活をとりまく環境を復元するための分析も行っています。

それでも一遺跡から得られる情報は断片的です。た

くさんの遺跡から集めた情報の断片を継ぎはぎしながら、各時代の生活や文化を復元していきます。発掘資料からなにがわかるかは、どのような調査で、どんなデータを抽出し分析を行うか、アイディアと努力次第という面が強く、予算と記録保存の目的にあった範囲のなかで、経験と知識を振りしぼることになります。

**発掘調査と整理作業** ただし、現地での発掘調査は第一歩にすぎず、それだけで遺跡の価値を測ることはできません。新聞で大きく報道されるのは発掘調査の途中やその直後のことで、「最古・最大・全国初」といった記事が一面トップを飾ることもあります。新聞は速報性がなにより重要なので当然のことですが、その時点では、中途半端な情報しかないのが本当のところです。あいまいな情報を元にした個人的な見解が広まってしまうといった弊害も多いようです。また、「考古学の常識を覆す発見」というのも実際にはほとんどありません。ひとつの発見で覆ってしまうほど未熟な学問では困ってしまいます。大きな発見とはいっても、たいいてい想定範囲内なのです。

遺跡の価値は、出土品や発掘記録の全体を見て資料や情報を整理し、掘り出された遺跡・遺構の時期や性格をひとつひとつ調べていく「整理作業」を経て、ようやく見えてきます。報告書はその成果を記録に収めたもので、考古学・地域史研究の基礎資料となります。

**研究の必要性** 発掘から報告書の作成にいたるまでの基礎作業こそ、発掘に関わる者にとってもっとも重要であることはまちがいありません。しかし、その彼らが研究者であることを否定するような極論は容認できません。研究をしないで材料を残すだけでは、価値を引き出し、活かすことができません。手付かずの研究材料が増え続けている現状を考えると、研究は大学などに任せるというのも無責任なことです。専門的な意識と研究意欲をもって、しっかりと発掘することが求められています。

**研究材料の提供** 発掘の成果は、考古学研究者はもちろん、それ以外の研究者や、研究者以外のさまざまな人たちが活用できる形で提供する必要があります。考古学を含めた歴史研究は、人の活動に関わる全てのジャンルを知ろうとするよくばりな学問です。発掘資料を読み解くためには、物理・化学、地質学、地理学、生物学、人類学、社会学、民俗学、食品・栄養学といった諸科学や、海・河川・森林、ヒト、植物・魚・鳥獣など、あらゆる知識が必要になります。考古学研究者は解釈の妥当性を高めるための努力を惜しみませんが、さまざまな知識と経験を積んだ専門家や、その地域をよく知っている住民など多くの人によって、分析



や評価が行われることの方が、ずっと成果が大きいのは言うまでもありません。

**発掘の成果と資料の活用** 研究材料を提供することと並んで重要なのは、発掘の成果を活用することです。本来、次善の策である発掘調査中心の行政に対する反省として、本来の目的である遺跡の保護と発掘成果を活かした街づくりや教育にシフトすべきという気運が全国的に高まっています。実際に、発掘の成果を活かしたさまざまな取り組みが全国でたくさん行われています。遺跡発表会、現地説明会、講座、普及誌の発刊、webサイトの公開などの従来から主流であった情報提供型の事業が拡大したほかに、体験型の事業や、学校教育での活用などが活発に行われるようになりました。体験型でも、初期は勾玉作りや舞ギリ式による火起こしなど、手間がかからない簡単なものを中心でしたが、最近では、発掘の成果や発掘資料の特性を活かした本格的なものも増えています。当市では、素材の入手から製作技術にまでこだわった貝輪作りや、小学校で教材として活用してもらおう事業を始めました。まだまだ試行錯誤の段階ですが、手ごたえを感じ、発掘資料の魅力をあらためて知ることがあります。

**学校教育での活用** 初めて歴史を学ぶ6年生たちが、毎年春に地域見学の一環で大勢来所します。数千年前に使われたものだ、といった説明に最初から反応する子は一部ですが、それが「君たちの小学校の下から出たものだよ」ということになると、状況は一変します。目の輝きが変わるのです。歴史に関心がない子でも、よく知っている場所から見つかったということになると、数千年前もなんとなく身近に感じるのでしょう。このことは、発掘資料が地域を考えるきっかけとして魅力的であることをつよく示しています。古代の体験学習は、先人の知恵や苦勞などに触れながら、自ら学び、考え、判断する力を育成し、その大事さを知るプログラムとして効果が期待できます。感覚が新鮮で鋭い幼少期にこうした経験をするのは、自主的な観察や独創的な思考力を高める上でも有効でしょう。なにより、地域について学び考えた経験は、大人になってから地域を大事に思えるかどうか大きな影響を与えるはずで

す。市立市原小学校6年生の今年の取り組みは、発掘資料が魅力的な教材となることを実感させてくれています。弥生時代の授業では、校舎の下から発掘された弥生時代のむらを取り上げたところ、児童の数を超える質問がありました。学区内が上総国の中心であった、という中世の授業では、「今はなぜ中心じゃないの」といった質問が出るなど、地域の昔と今を考えているようでした。現在は、写真のように竪穴住居の復元や土器・アクセサリー作りなどにチャレンジしています。これから、各小学校に合った教材を増やし、先生方との協力体制を作って活用を広げていきたいと考えています。

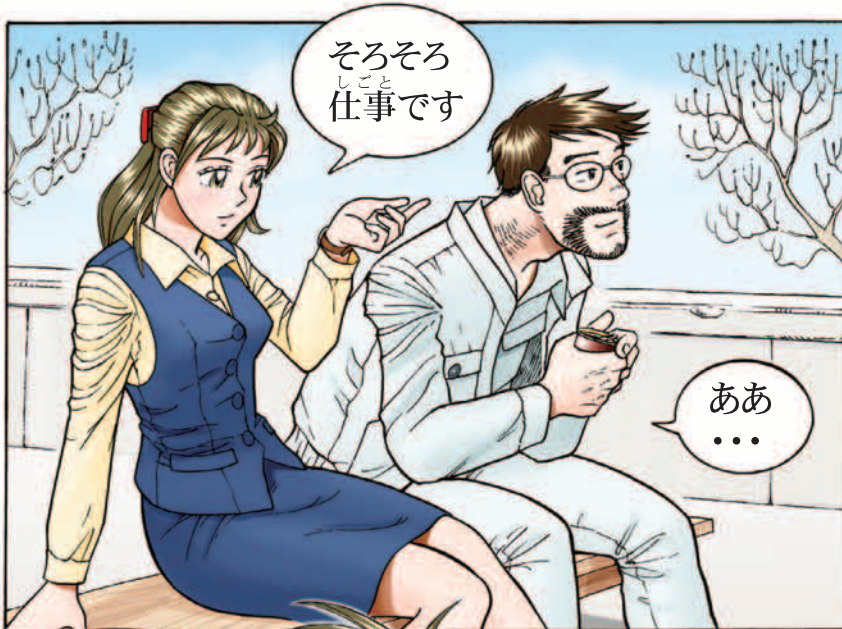
**年配の方々からの熱い声に答えたい** 一方、年配の方

々のなかには、こちらから呼びかけなくても、歴史や地域の文化に高い関心をもった方が多く、当センターの行事にも毎年大勢の参加者があります。アンケートには、鋭い批判から暖かい励ましの声まで、具体的な意見が書かれていることが多く、どれもほんとうにありがたいものでした。高齢者は、この数十年の世の中の急激な変化を目撃し、体験してきた人たちですから、わたしたち自身が歴史の主人公であるという感覚を自然に持っていて、歴史を身近に感じるのではないかと思います。快適で便利な生活を手に入れた一方で、時代に合わずに失われ、忘れられていくものの中にも大事なものがあることを実感として持っている方も多いのではないかと想像しています。地域の歴史と風土をよく知った上で、地域をどのように活性化し、どのような地域づくりをめざすのか。何を未来へと引き継いでいくべきか。経験の豊富な高齢者の意見がますます重要になると思います。わたしたちも、失われていくものを保護し、記録する者として、ともに取り組んでいきたいと思っています。

**現実と、これから** 以上、かくあるべきというところを書いてみましたが、思いはあっても現実はなかなか厳しいものがあります。遺跡や出土品の数量が膨大などところでは、人や予算の配分は発掘・整理作業で精一杯、逆に多くないところでは専門職の配置がないか、あっても埋蔵文化財に関わる時間が少ない等々。研究や活用は、仕事以外の時間を使った、個人的な努力と情熱に支えられている場合が多いようです。発掘・整理作業も、研究・活用も、どこを切り捨て、どこに時間をかけるか日々バランス感覚を問われています。中途半端であるが故に効果も期待できず、活用の拡大を図れば自分の首を絞めてしまうという厳しく、歯がゆい現実があります。しかし、厳しい財政状況下でいかに行政サービスを低下させずに済ませるかとは広く共通した課題であり、博物館や発掘情報館、体験館などの活用拠点をもって実践している自治体もあるのですから、愚痴を言っているとはいけないですね。(西野雅人)







そろそろ  
しごと  
仕事です

ああ  
...



ねえ  
知ってました?

このシリーズ  
2万7千部を  
とっば  
突破したん  
ですって



そうか  
そんなに  
なるのか...

どくしゃ  
読者のみなさまの  
おかげですね

なが  
長いあいだご購読  
ありがとうございました  
おも  
おも  
思えば私もいろいろ  
まな  
まな  
学ばせていただきました

みなさまとは  
わか  
ここでお別れですが  
ふたた  
再びお目にかかれる日を  
こころま  
心待ちにしています



発掘ってなあに：完



# 編集後記 ファイナル

# さとしの部屋



A とても面白く読ませて頂きました！解りやすいマンガなのでさらりと読めた感じがします。現場と室内作業の経験がある私でも再発見・再納得があり、目からウロコの状態です。さとクンのはじめっぷりにも好感もてるかと。ただ共感が出来かねるのですが・・・ さとしクンと同名の調査員さんを知っています。性格は違いますが容姿はけっこう似ていると思いますよ。お二人の出会いの場があると良いのですが・・・ これからも頑張ってくださいね！  
(岩手県 埋文関係者)

→お便りありがとうございます。この冊子があなたの埋文ライフにお役に立てるよう願っています。ところで話題の調査員は、性格も漫画そっくりではないかと思うのですが・・・ きっと猫をかぶっているのでしょうか(笑)。  
(なるみ)

B 多少日本史を勉強した者ですが、考古学は未知の世界で、TV・写真などで少し見る機会がある程度でした。「なるほどそうだったのか」と思える場面がたくさんありました。読みやすく、大人の私も小学生の子どもたちも楽しく拝見しました。学校の副読本にこんなのがあったら、「もっと考古学に関心をもった学生生活を送っていたのに」と残念になります。大学で考古学実習を選択すれば良かったと思いました。続きもぜひ読みたいです。楽しみにしています。  
YMさん(千葉県千葉市)

→こちらのお便りは、埋文関係の方でしょうか？ぜひこれからも、お子様と一緒にご覧下さい。実際本誌を学校の教材に検討する話もあり、製作側としては積もる苦勞が報われた心地です。子供たちと楽しみながら、何かしら拾っていただければ幸いです。  
(編集者)

## 特別コラム 俺と現場

「現場」と言えば、某映画の『事件は会(略)、現場で(略)』ですが、埋蔵文化財〔以下埋文〕での現場は、「遺跡発掘調査現場」のことです。そして事件とは、ずっと昔に起きて忘れられた出来事で、その痕跡を調査研究する仕事を、我が文化財センターが行っているわけです。

ただ埋文での「事件・現場」には両義性があります。発掘自体が事件現場であり、調査担当者は遺跡を調査することで、解体・破壊へと「犯行」に及んでいるとも言えるからです。その為ではないでしょうが、発掘には記録と研究成果の公表という免罪符的な義務が用意されています。

発掘調査は、数多くの調査補助員、重機械等のオペレータが協力して、チームで進めるフィールドワークです。学生時代に参加した発掘は、気ままな立場だったからでしょうか、とりわけ楽しい思い出ばかりです。一年12ヶ月現場に出ていると、その土地の匂いというか、書籍や図面にはない雰囲気はわかってきます。いつか調査した土坑墓には、亡骸が土に返った薄い土層があり、サラサラと綺麗なものでした。土と共に生きる使命を感じました。以来、俺は現場埋文の『大地の子』なのです。(近藤 敏)



## バックナンバー

- ・創刊号(住居跡篇)
- ・第2号(貝塚篇)
- ・第2号別冊(なるみちゃんの貝輪教室)
- ・第3号(縄文土器篇)
- ・第3号別冊(なるみちゃんの土器作り教室)
- ・第4号(弥生土器篇)

※本篇およびバックナンバーの販売については、4月以降に市原市で行う予定です。

価格や購入方法などは市原市埋蔵文化財調査センターHPにて4月からお知らせしたいと考えています。



今後もお便りやアンケート下さいね 待ってま〜♡

市原市埋蔵文化財調査センター  
〒290-0011  
千葉県市原市能満 1489  
TEL 0436-41-9000  
FAX 0436-42-0133



## お知らせ

平成18年3月31日をもって当財団は解散しますので、『発掘ってなあに』も本号で終了させていただきます。本シリーズをご愛顧いただき、ありがとうございました。

来年度以降は、財団啓発パンフレット『私たちの文化財』と本誌を合併した新体裁の普及冊子を、市の機関「市原市埋蔵文化財調査センター」から発行する予定です。紙面では市内の主要遺跡を詳しく紹介していきたいと思っております。今後ともぜひご購入下さい。



# なるみの貝輪教室

番外篇



## 新技法を発見!

貝輪が千点以上!  
出土した秋田県  
かしのこころかいづか  
柏子所貝塚に  
行ってきました



のしろし  
能代市教育委員会に遺物を見せて  
いただきました

ほとんどが未製品なのにびっくり  
しましたが ここで問題が..

コレより小さい穴のものがない

..まさかコレが  
第一工程??

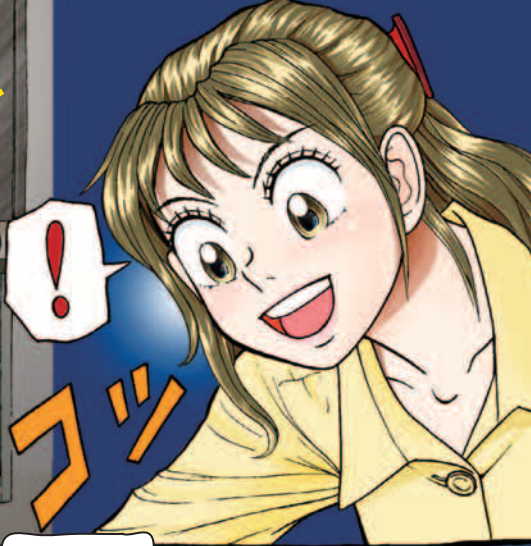
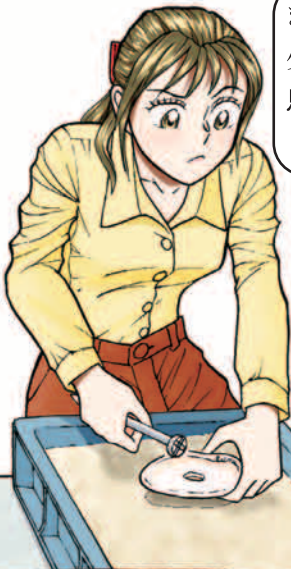


まず小穴をあけて  
少しずつ広げると  
思ってたんだけど  
...

-いろいろ試して-

発見したのです

その状態の未製品が  
ぜんぜん見つからないの  
ぜったい変よね?



従来の方法 (2号別冊を参照してね)

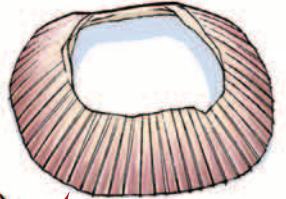
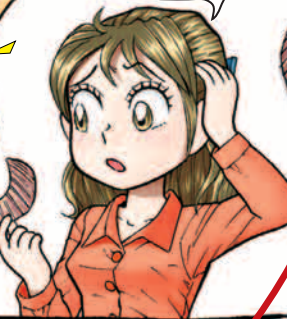
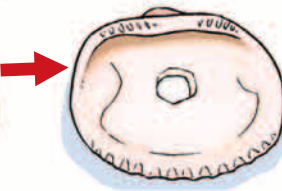
穴を少しずつ  
大きくする

この間に  
けっこう失敗  
してました

クライマックスへ

貝をうらがえし

まん中を測量鉞でたたく



今回発見した技法

ハンマーは細長い石でうまくいきます  
実際このような石が出土してるし..

ここからは  
鹿角でネ

遠い目→

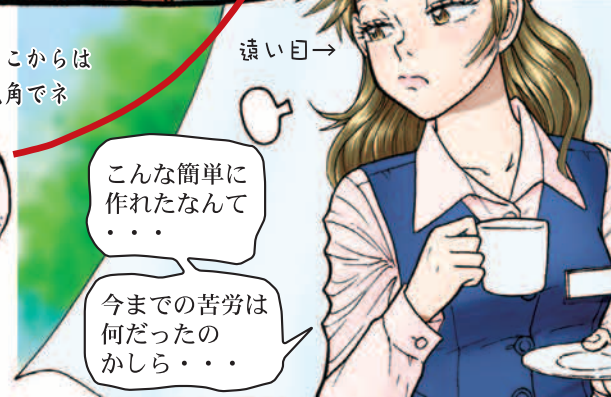
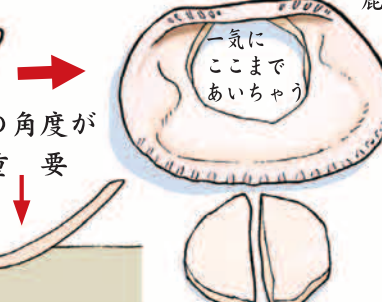
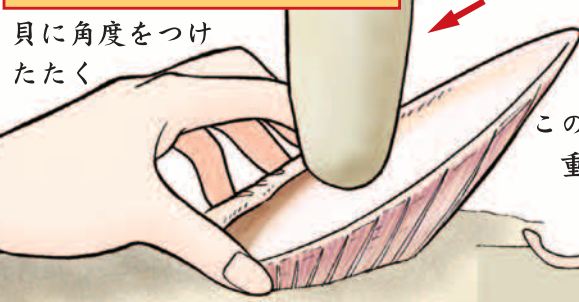
貝に角度をつけ  
たたく

この角度が  
重要

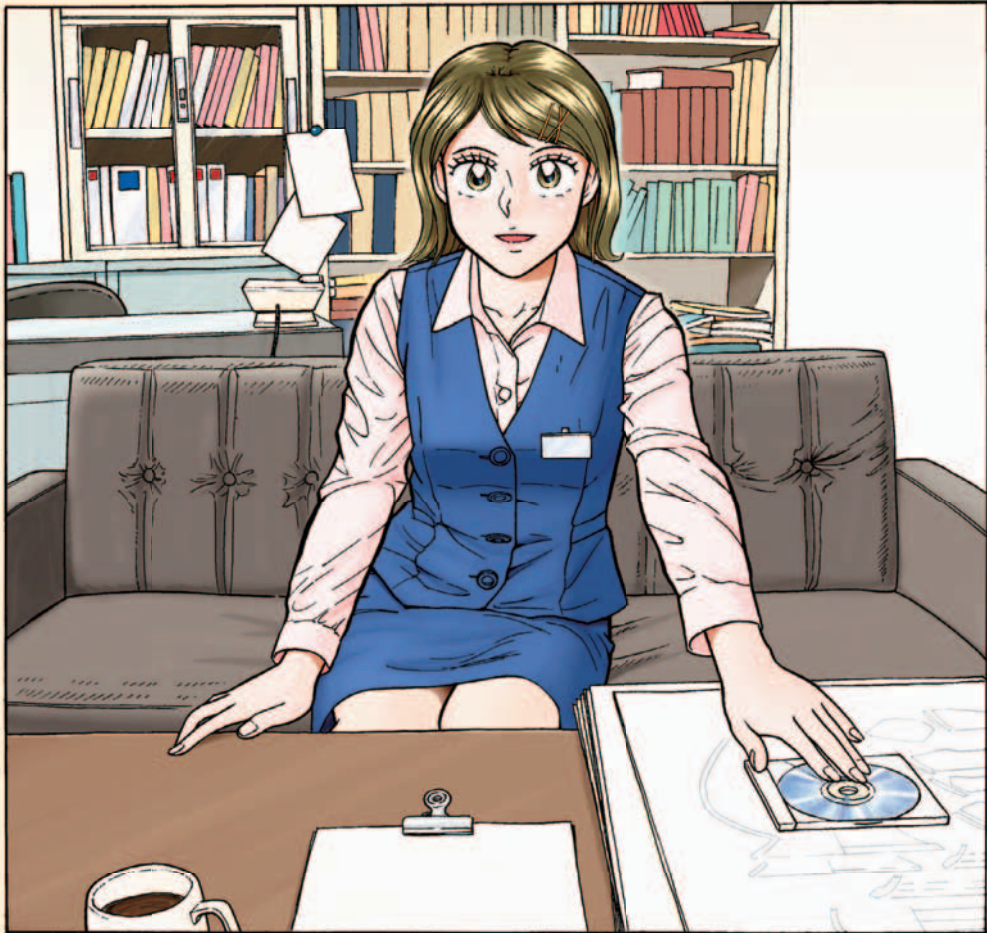
一気に  
ここまで  
あっちゃう

こんな簡単に  
作れたなんて  
...

今までの苦労は  
何だったの  
かしら...







『発掘ってなあに』 特別号 発掘のしごと篇

発行日 平成 18 年 1 月 31 日

編集・発行 (財) 市原市文化財センター